

12月 学校だより 第8号 木の苗木

木城町立みどりの杜木城学園
令和5年12月20日(水)
文責：佐藤 健一郎

ICT活用推進モデル校授業公開 ～ 子どもたちに未来社会を生き抜く力を ～

未来社会を生きる子どもたちにとって、パソコン（タブレット）は鉛筆やノートと並ぶ必要不可欠な道具となります。その時代の流れの中で、今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場面でICTの活用が日常のものとなっています。

本校では国のGIGAスクール構想のもと、一昨年から1人1台タブレット端末が整備され、授業等でのICT活用が進んでおります。本校は今年、県教育委員会のICT活用推進モデル校に指定され、12月13日(水)に授業公開を行いました。本校の特色ある教育活動を軸とした実践をもとに、3つの学級で授業を公開し(下表)、県内各地から参集した約70名の先生方とICTを活用した授業や



教員のICT活用指導について協議を深めました。それぞれの分科会では、子どもたち一人一人の学力を向上させるためのICT活用について活発な意見が交わされましたが、不易流行という言葉にもありますように、これまで延々と蓄積されてきた指導技術を軸に置きつつ、知識・技能や思考力など、身に付けさせたい力や場面に応じてICTを有効活用していくことの重要性を再認識することが



【協議会】できました。

今後も引き続き研究を推進し、木城の子どもたちに未来社会を生き抜く力を育み、可能性を広げることができるように全職員で取り組んでまいります。

学級	分科会(特色ある教育活動)	教科等	単元名
4-2	ふるさと・キャリア教育	総合的な学習	木城町の伝統芸能
6-2	ICT教育	社会科	国力の充実を目指す日本と国際社会
8-1	外国語教育	英語科	Live Life in True Harmony

持久走、駅伝・ロードレース大会 ～ 力の限り走り抜きました ～

12月とは思えない暖かな陽気となった12月15日(金)。前期課程は運動場で持久走大会、後期課程は町総合運動場で駅伝・ロードレース大会を実施しました。ここに至るまでに主に体育科の授業などで体力づくりをしてきた子どもたちは、それぞれがタイムや順位などの目標をもって取り組んできました。長い距離を走ることにより全身の持久力を高めることはもちろんですが、最後まで諦めずに走り抜く粘り強さも培われたのではないかと感じています。駅伝では、7年～9年の各学級の代表選手でタスキをつなぎました。最初は最上級生の9年生が優勢でしたが、途中から8年生がトップになり、そのままゴールするという展開となりました。沿道で選手を一生懸命応援するクラスメイトの姿に、各学級の団結力と絆を感じることでできる大会となりました。



【持久走大会】

8年修学旅行 ～ 東京2泊3日の旅 ～

12月6日（水）から8日（金）の2泊3日の日程で修学旅行に行きました。1日目の班別自主研修では、上野から浅草までを班ごとに散策し、国立の博物館などを見学した後に浅草に向かいました。人の多さや外国人観光客の多さに圧倒される中、勇気を出して外国人観光客に話しかけるといった日頃体験できないことを体験し、生徒は満足そうでした。2日目は東京ディズニーランドで楽しんだ後に、関東木城会の方々と交流しました。首都圏と木城それぞれのよさについての意見を交換し、都会の便利さや木城の人々の温かさなどについて再認識できました。そして、関東木城会の方々がなぜ首都圏に行ったのか、どのようなキャリアを積んできたのかについて質問したりして、生徒も自身の今後の生き方について考えるよい機会となり、あっという間に時間が過ぎた交流会でした。3日目は東京グローバルゲートウェイ（TGG）で、新しいタイプの英語学習を体験しました。班ごとに外国人の先生がついて、「TVのニュース番組作り」「風呂敷の使い方」「レストランでの注文」などの場面設定がなされた各コーナーで英語を使ってコミュニケーションをとりながら解決していくというものでした。生徒たちは、体験前は英語を使えるか不安そうな様子でしたが、それぞれのシチュエーションにあった本格的なセットの中、普段とは違ったリアルな空間で英語を使うという体験を通して、英語を使う楽しさに気付くことができたようです。

東京での2泊3日は、日常にはない体験ができ、生徒一人一人がそれぞれの目標に向けてレベルアップできた修学旅行となりました。



耕心コーナー 「地域の中での子ども達の姿」
本校の教育目標は、

ふるさと木城を愛し 目標をもって主体的に学び
思いやりとやさしさのある心身共にたくましい
児童生徒を 地域と共に育成する

と設定しています。学校だけが学ぶ場ではなく、家庭や地域の中でも、子ども達が学ぶ場はたくさんあり、同じ方向を向いて木城つ子を育成していきたいという思いから、このように設定してあります。

二期は、このことを強く感じる場を多く見ることができました。例えば御池自治公民館では「コスモス祭り」が実施されましたが、その場にジュニアリーダーも参加しており、準備や来場者の案内、出し物への参加等熱心に活動する姿が見られました。また、比木神社や中之又鎮守神社で奉納された「神楽」では、本校の児童生徒が神楽を舞う姿を見ることができました。

このように、地域の中で活躍する子ども達の姿を見て大変うれしく、そして頼もしく感じました。いずれも、練習や準備の段階から地域の方とのふれあいがあり、新たなつながりもできたことと思います。自分たちが住む地域の行事に参加することは「ふるさと木城を愛する」ことにつながりますし、学校だけでは学ぶことのできないことを確実に学んでくれていることと思います。

このような機会を与えてくださっている、地域の方々に改めて感謝すると共に、子ども達を地域と共に育成するということを強く実感できた地域の行事でした。